

平成 13 年度通常（第 3 回）理事会議事録

日 時 平成 13 年 12 月 15（土） 13:00～18:00

場 所 岸記念体育会館 402 会議室

出 席（敬称略、順不同）

山崎達光（委任：小田切満寿雄）井手正敬、小田切満寿雄、戸田邦司（委任：小田切満寿雄）松本富士也、小田泰義、栗田栄一郎、高橋順一、岩田直幸、栗原博、斉藤威、清水昭、鈴木保夫、富田稔、戸張房子、名取正精、浪川宏、平賀威、広瀬興郎、松田健次郎、三井祥功、倭千鶴子（委任：秋山雄治）、池田栄宏、福田義一、昇隆夫（委任：秋山雄治）、都築勝利、水谷益彦、中山明、岩田行史（委任：小田泰義）、石崎五一郎、西原敏文、古谷正宏、秋山雄治、

以上、出席 33 名、内委任状 5 名

石崎忠朗、青淵隆督

以上、出席監事 2 名

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 33 名、出席者 33 名（内委任状 5 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立。

（議長による開会宣言）

山崎達光会長が病氣療養中のため、寄附行為第 19 条に基づいて小田切満寿雄副会長が議長となり、平成 13 年度通常（第 3 回）理事会の開会を宣言。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人としては、議長指名により鈴木保夫、石崎五一郎の両理事が任命された。

（井手副会長挨拶）

さまざまな問題が山積みしているが、スポーツマン精神に則ってやっていただきたいとのご挨拶があった。

（山崎会長からの書面による挨拶）

山崎会長の「寄付行為の目的及び事業の基本に立ち戻って、理事全員が経営感覚をもって知恵を結集すること、すなわち財政の安定化こそ急務であり組織改革もまさにその一歩である、いい結果を期待する」としたメッセージが松本副会長により朗読された。

（松本副会長挨拶）

思わぬ経済的な危機がある。各委員会での連絡を取り合い JSAF の活動がスムーズに行くようにご協力戴きたい。JSAF のメリットが見えないとの問い合わせが多く、メンバーに対して何ができるのかと言うことを、真剣に考えていく必要がある。JSAF の義務というものを、各委員会ごとにまとめていただき、これからの構造改革基礎資料としていきたい。

(小田切副会長挨拶)

JSAFの財政状況が難しくなっていて来ており、緊迫していることをご理解いただきたい。また、議事録については議事録署名人は、議事録をきちんと整え、責任を持って署名・捺印をお願いしたい旨の確認があった。

(鈴木会計担当理事のJSAF会計状況報告)

JSAFの13年度予算は、収入についてはリソグの寄付金を4,850万円を計上しており、その内、2,250万円を一般会計に組み入れている。現在の寄付金収入は12月において、約3,100万円と当初の目標額に対し、1,750万円不足している。また、印刷物の作成、真木氏の経費等、当初に比べ約800万円程度の支出増となっている。結果的に寄附金の目標が800万円プラスされて約5,600万円となり、必要な寄付金に対し、2,500万円が未達成となっている。現在の経済状況を考えて場合、今年度中に2,500万円を集めるのは不可能と考えざるを得ない。このままでは赤字決算になる恐れが非常に大きく危機的状況と考えられる。対策として、より一層の寄付金集めに努力するとともに、経費の削減に努め、各事業については、どうしても中止できない事業以外は凍結するなど、第2次補正予算の作成が必要と考えられるので、これから支出する事業を縮小又は、止めていけるものがあれば報告していただきたい。その他の方法として、リソグ強化予算を圧縮するか、理事が足りない部分を負担していかなければ行けなくなることも承知いただきたいとの報告があった。

議案事項(3)和歌山リソグセンターの件

松本副会長より、次の経過状況と今後の提案があった。

平成12年8月に貝道前専務理事名でのリソグセンター設置依頼文書が、和歌山市・和歌山県連・松下興産へ提出された後、和歌山県連が和歌山市へ働きかけをしております。連盟(JSAF)は、平成13年9月に和歌山市議会より、和歌山リソグセンター実施計画作成事業に対しての総事業費の700万円(70%)の補助金が承認されたことの連絡を受けました。内訳は、総事業費：1,000万円、和歌山市補助金：700万円、連盟(JSAF)負担金：300万円であり、事業実施期間が平成13年9月～平成14年3月31日となっている。

連盟(JSAF)として野村・三和・三菱総研に見積りを依頼したが、野村・三和総研がさまざまな環境状況を理由に辞退をしてきている。

JOC国際競技力向上戦略(Gold Plan)及び、国立研究所科学センター(JISS)へのデータ管理システム作成費用については、連盟(JSAF)負担金300万円ゴールドプラン(国際競技力向上戦略)を作成することによって、JOC連携としての将来展望を拓くことにより、JOCからの補助金増額も期待ができる。

三菱総研に発注、既に完了している「和歌山リソグセンター基本計画書」の作成費用100万円の支払いをするが、後日資料提供費又は寄付金で戻し入れすることを考えているとの説明があった。

この提案に対し、鈴木会計担当理事より、財政状況の面からも連盟負担金300万円の支

払いに対し理事の負担を考える必要があるのではないかの発言があった。

その他、各理事より資金・信用・日程・実現性の部分についても議論がなされ、支払いをすることとするが、各理事の負担になることともあるとの条件を加え、記名投票で決定することとなった。

以下の結果、賛成者過半数により支払いが承認された。

記名投票の結果（順位不同）

賛成（支払いをする / 各理事の負担になることがある）:

松田健次郎、福田義一、広瀬興郎、池田栄宏、岩田直幸、斉藤威、平賀威、栗原博、石崎五一郎、古谷正宏、戸張房子、西原敏文、名取正精、三井祥功、中山明、秋山雄治、松本富士也、小田泰義、高橋順一、栗田栄一郎、井手正敬、倭千鶴子（委任）、昇隆夫（委任）、岩田行史（委任） 以上 24 名

反対（支払わない）:

水谷益彦、鈴木保夫、都築勝利、富田稔、清水昭、浪川宏、小田切満寿雄、山崎達光（委任）、戸田邦司（委任） 以上 9 名

議案事項（４）スイ° ロ° マーク商標登録 1 / 2 負担について

小田専務理事より、ロ° マーク登録後 10 年が経過し、スイ° 協会が特許事務所に対して更新の申請。登録時に JYA の前任者とスイ° 協会による費用の折半の取り決めがあり、今回の更新料もその 1 / 2 を JSAF が負担することについて審議され、今回は支払うが 10 年後については支払わないという条件で、JSAF が 100,000 円（1/2）を負担する。スイ° 協会と今後の契約を総務委員会が取扱う、20 名賛成で過半数により承認された。

議決事項（１）評議員選出について

松本副会長より、次の合意事項の経過について説明があり、

加盟団体としての J 系の県連(47)、N 系の外洋(16)の位置付けは変わらない。（平成 10 年 10 月 29 日 / J と N の合意事項）

JSAF の会員増が急務であり、その為には艇種別団体、目的別団体（学連・高体連・ジュニア・実業団等）、その他クラブ別加入や個人会員の活性化とそれを受け入れやすい組織にする。

水域別 8 ブロック制を採用し、N と J の大枠を取り外し水域の中でお互いを尊重し、人材重視の観点から協議の上、評議員を選出してゆく、その上で J と N のバランスも崩さないよう配慮する。

人数割り基礎数値は平成 13 年 3 月末の登録数による。

会員数比例による割り当て <ケース 1 > か主団体代表 1 名を割り当てた上で残数を会員数比例による割り当て <ケース 2 > の 2 案で検討中。

以上の確認がされた。

中山理事よりの議事進行についての提案を受け、小田切議長発議でまず最初に各水域ごとに報告を拝聴することとなった。

(東北・北海道水域 / 高橋理事)

組織改革を先に進めて、評議員の選出については 11 年度と同じで良いのではないかと、平成 16 年の 3 月までに理事会で組織改革案を纏めて十分検討をするとの意見が強い。

(関東水域 / 昇理事)

欠席

(関東外洋団体・富田理事)

関東外洋 4 団体の連絡会を開き提案のケース 2 で同意している。

(中央ブロック / 都築理事)

外洋東海で話し合いをして、本件一任されております。愛知県連の森理事長とは、個人的に会い今までの経緯を説明しました。

(中部水域 / 水谷理事)

急激に評議員の人数制限は異論がある。

ケース 1 も 2 も賛成し兼ねる。

(近畿・北陸水域 / 中山理事)

評議員の人数の割り当てについては、評議員会の時のみしか意味がないので、複数の評議員は必要ないとの意見が出ている。艇種別への割り当てを増やすことを考慮してケース 2 に賛同する。

(西・南ブロック / 岩田(行)理事)

欠席

(関西 / 小田専務理事)

すでに関西セリング連盟を発足、ケース 2 で合意し艇種別への配慮もしている。

(関西水域 / 石崎理事)

艇種別団体の評議員がゼロになるのは良くない。

(中国水域 / 西原理事)

ケース 1・2 に現場の意見を加え検討していただかなければ、同意できない。

(四国水域 / 古谷理事)

返事を取ることが出来ませんでした。

(九州水域 / 秋山理事)

ケース 1 と 2 の修正が多少必要であるとの意見がある。

小田専務理事より、ただいまの各水域の意見を含めて一度採決をした上で、艇種別への配分について修正するとの提案があり、記名投票に入った。

以下の結果、<ケース 2> が過半数をしめ、決定にいたった。

艇種別への修正は常任委員会と関係水域理事の出席のもとにまとめることで承認。

記名投票の結果 (順位不同)

<ケース1> 賛成：ナシ

<ケース2> 賛成：鈴木保夫、中山明、福田義一、富田稔、松本富士也、浪川宏、松田健次郎、戸張房子、栗原博、三井祥功、小田泰義、都築勝利、斉藤威、小田切満寿雄、池田栄宏、平賀威、戸田邦司（委任）岩田行史（委任）
以上 18名

<ケース1・2> 反対：清水昭、栗田栄一郎、高橋順一、西田敏文、古谷正宏、広瀬興郎、水谷益彦、名取正精、岩田直幸
以上 9名

<棄権> 山崎達光、井手正敬、秋山雄治、昇隆夫、倭千鶴子、石崎五一郎
以上 6名

富田理事より次の緊急動議が提案された

艇種別団体が評議員がゼロになる団体があるが関東水域の加盟団体の評議委員の一部をその団体に振り向けたらどうか、その調整を常任委員会に一任させて頂きたい。

小田切議長はこの緊急動議の有効性の採決を取ったところ賛成多数で承認された

次に緊急動議の審議に入った

戸張理事より調整の会議に水域理事を同席させて欲しいとの意見が出された。

この意見を採用入れ、水域理事を同席させて調整を常任委員会に一任する事の採決行い賛成多数で承認された。

議案事項（2）特別加盟団体の登録変更について

秋山理事より以下（主要意見のみ掲載）のような意見が出された

カテゴリーについて

常任委員会案の大学ヨット部、高校ヨット部、各地ジュニアクラブ、企業ヨット部等は除外する。

理由 これらの団体は都道府県連盟の主要な構成員であり、連盟の重要な役員をも兼ねているので、J S A Fへ直接加盟を認めることはその水域の組織の秩序を乱すこととなる。

特別加盟団体として（その会員）の権利について

J S A F加盟団体、特別加盟団体の主催するレースに参加する権利は有するが但しレースの性格上、特に定めた規定及び資格が要求される場合はこの限りではない、またその資格等により、参加料の区分があることは認められる。

理由 国体参加選手はバッジテストの有資格者であること、艇種別全日本選手権大会等においてはその該当協会会員であることが要求される。

現状の加盟団体、特別加盟団体についての変更を行わない、新しくクラブ登録を可能にする追加条項であることを小田専務から発議され、承認された。

協議事項（１）メンバー登録方法について

報告事項（１）2003年ISAF総会日本招致の件

広瀬国際委員長のリポートより、次の様に報告された。

中山理事の参加を得て、11月11日にISAF事務局長（Arve Sundheim, Melanie Foster）に京都での総会準備状況、必要経費見積り、各種 party の手配、参加者の Hotel(A,B,C の rank 別)、交通など詳細の説明を行った。更に Executives 初め、多くの参加者に京都の PR を行い賛同を得ていたが、11月12日に Singapore の Low Teo Ping 会長より、日本から明確な意思表示がなかったため、立候補する事となった。ISAF には京都案と Singapore 案の 2 つが出ることになり、ISAF Executive 委員会内で 11月15日に協議の結果、2003年11月総会は結論せず、2002年2月のISAF Executive 委員会で決定し、2002年5月の Mid-Year Meeting にて発表するとの結論となった。

（11月17日の Council にて Paul Henderson より下記内容の説明があった）

JSAF 提案で、会議室及び設備費用は了解できるが、参加者の為の交通費と Hotel 代が高く参加者の減少を招かぬかを心配している。

Singapore からの提案は未だ費用は明確ではないが、ISAF Executive としてはオプションとしてすてきれない。2002年の1月に Vice President David Kellet と Arve Sundheim が、中国・青島に行くのでその時京都に行き詳細を打合せ、その結果満足できれば2月の Executive Meeting に報告するとの考えである。

福田理事から ISAF 招致について、承認の議決があったかの確認があり、会長一任で承認されていることの確認がされた。

報告事項（２）艇種別代表者会議について

松田理事より、11月27日夜と28日昼に行われた艇種別協会との懇談会について次のリポートが提出された。小田切副会長、松本副会長、小田専務理事、松田理事、富田理事など、35 クラス協会中 21 協会 24 人が出席された。新しい組織改革案は現在、理事会で検討中であり、来年3月の評議員会で提出される段階にあるとの状況説明をした上で、各団体との意見交換がなされた。

- ・ 現在検討中である JSAF の組織改革案については、おおよその理解が得られたと考える。
- ・ JSAF 主要メンバーと艇種別協会の代表者との意見交換は今後積極的に開いて信頼関係を築いていきたい。

報告事項（３）世界大学選手権（2004年）開催地立候補について

松田理事より、出場選手がいらないため立候補しない旨、報告があった。

報告事項（４）ISAF 総会報告

広瀬国際委員長より、今年の総会は 11月9日～17日の9日間 Portugal Lisbon にて開催され、日本からは次の各氏が参加され、リポートが提出された。

穂積八洲雄氏 (Council) , 広瀬興郎氏 (Events & Youth World Championship Sub-Committee), 清水昭氏 (Medical Commission/Disabled), 柴沼克己氏 (Int'l Judges Sub-Committee), 鈴木明善氏 (Int'l Umpire Sub-Committee), 富田稔氏 (Offshore Racing Committee), 戸張房子氏 (Women's Sailing Committee), 大谷たかを氏 (Centerboard Boat Committee) の以上 8 名が参加。

報告事項 (5) ルール委員会活動等報告

柴沼ルール委員長より次の報告書が提出された。

1、顧問委員について

次の方々平成 13 年 11 月 3 日付けで顧問委員に平成 15 年 3 月 31 日までの任期中で就任する。

大村泰敏、三浦 浩、上河睦美、庭田雄二、高村 孝、鈴木 忠、高田俊男、濱永裕、船迫 進

2、A 級ナショナル・ジャッジ認定について

8 月 25 日 (土) ~ 26 日 (日) に東京都内で開催された A 級ジャッジ認定講習会・試験を受講 (験) された 4 名のうち 3 名が合格した、委員会で審議の結果、内 2 名が A 級ジャッジに認定され、1 名が保留 (経歴不足) とされた。

3、ISAF レース・オフィシャルズについて

ISAF2001 会議において次の通りとなりました。

* I J (インターナショナル・ジャッジ) 関係

新規 榛葉克也 (承認)

更新 秋山福夫、周東英卿、加島光一、大谷たかを (承認)

(退任) 平田克己

* I U (インターナショナル・アンパイア) 関係

新規 青山 篤 (承認)

(退任) 加島光一

* I R O (インターナショナル・レース・オフィサー) 関係

新規 戸張房子 (承認)

報告事項 (6) 計測委員会運営規則について

計測委員会では統合後の計測委員会運営規則を検討し、先日の委員会で決定したので、ご承認の上、発効したい。反対意見なしで承認された。

報告事項 (7) 表彰制度について

栗原理事より会長表彰規程、外部団体表彰等の推薦に関する取扱要領等の中間報告資料の提出があった。

報告事項(8) 14年度3月全国委員会・評議員会について

小田専務理事より、平成14年3月16日(土)にB&G財団東京海洋センターにて、一日のスケジュールで実施する提案がなされた。

秋山理事より、16日(土)と17日(日)の2日間に分け実施することの方が評議員・全国代表者にとって、深く理解と親睦を得ることが出来るとの提案があり、検討することとなった。

報告事項(9) その他

日本一周計画(案)

公認セーリング教室公認申請について

平成13年9月27日に佐賀県ヨット連盟より申請のあった「公認セーリング教室(中級者コース)」につきましては、12月15日付の認定証を、全国普及安全会議(11月17日・18日/於;横浜)で、小田専務理事より交付していただいた旨、斉藤指導委員長より報告があった。

国際VHF海岸局新設について

三井安全通信委員長より、関東南方海域では、この「おおしまよつと」局の開設によって、相模湾、相模灘、伊豆諸島北部に隙間の無い通信エリアが確保できる

「おおしまよつと」局の申請概要について

名称:「おおしまよつと」

電波形式:国際VHF CH71(156.575MHz)三崎、三宅と同一
チャンネル 出力 25W

所在地:東京都大島町 高間宅内

開局経費:約35万円(無線機 15万円/空中線 2万円/工事費
10万円/免許申請料 5万円)

尚、本局開設による本部の経費負担は、基本的にありません。との報告があった。

本年度11月末メンバー登録状況について

平成13年11月30日現在の登録数は11,124人で内訳につき、加盟団体(県連)7,195人、(外洋)3,323人、艇種別団体606人との報告があった。

年末・年始業務について

JSAF本部事務局業務

仕事納め:平成13年12月27日(木) 17:00まで

仕事始め:平成14年1月7日(月) 9:30より

その他

- ・ JOC アンチ・ドープिंगに関する競技団体説明会について
- ・ 平成 13 年度 JSAF 理事会・委員長会議出欠状況報告
特に委員長会議の欠席をされる委員長は、代理出席を考慮していただきたい。
- ・ 松田理事より、選考レース（12 月 18 日～28 日）での上告は、否認されることを承認していただきたい旨、報告があり承認された。

以 上

平成 13 年度通常（第 3 回）理事会議案は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成 13 年 12 月 15 日

議 長 副 会 長 小田切 満寿雄

議事録署名人 理 事 鈴木 保 夫

議事録署名人 理 事 石 崎 五 一 郎